親字	音訓		文・金文・ 酒周・春秋		説文解字 秦篆		書	草書	行書		書から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
	イチ イツ ひと ひとつ			岑				->					3
教1常①		甲骨	毛公鼎	郭店楚簡	説文篆文	馬王堆	乙瑛碑	十七帖	蘭亭序	高貞碑	九成宮	五経文字	那須國造碑
1	シチ	+		4	対対	武威漢簡		ょ	ナ	<u></u>	ナ	+	
教1常①	ななつ なの	甲骨	金文	睡虎地秦簡	説文篆文	居延漢簡	乙瑛碑	十七帖	集字聖教序	孫秋生造像	孔子廟堂碑	五経·序	稲荷山鉄剣
				包山楚簡	9	居延漢簡	曹全碑						法華義疏
教3常①	チョウ テイ		金文	包山楚簡	説文篆文	居延漢簡	ず。	了 孫過庭	了智永	了 張猛龍碑	3	丁 九経·序	型武天皇維集
211110			•	www.	30.5357	an controlled	-amend PT	principles:	11.45	ersmall@PT		7 00.00 /9	
下	カ・ゲる たっさる・ がる だささる・ がる たっぱ も たっと	/=	金文	卡	F	F	7	١	7,	下	下	下	F
教1常①	かっさけるした・しも・もと	甲骨	鉄設	包山楚簡	泰山刻石	馬王堆	禮器碑	十七帖	集字聖教序	魏霊蔵造像	九成宮	五経·序	法華義疏
					説文篆文	敦煌漢簡							
					説文篆文								
教1常①	サン み みつ みっつ	#	大盃鼎	睡虎地秦簡	説文篆文	居延漢簡	乙暎碑	十七帖	集字聖教序	張猛龍碑	九成宮	五経・序	法華義疏
教1 冊①		4.8	入血册	三 三	=======================================	店延供問	乙炔畔	1.0%	来于室软巾	TOTAL SHELTPF	/山风呂	工程・//	公平找师
<u> </u>	ショウ・ジョ ウ あがる・あげ る・うえ・の わ・かみ・の	ニ		包山楚簡		嵩山 少室石闕銘	上]^	}-	Ł	ド	H	7
教1常①	わ・かみ・の ぼす・のぼせ る・のぼる	甲骨	金文	包山楚簡	説文篆文	馬王堆	乙瑛碑	十七帖	集字聖教序	始平公造像	九成宮	五経·序	法華義疏
					説文篆文	馬王堆							
						居延漢簡							

【七】「十」と字体衝突した結果、縦線を曲げるようになる。 当用漢字字体表では康熙字典や当用漢字表と同じように最終 画を上にはねているが、教育漢字は止めている。

2

											字体変遷	字典』大	熊肇試作
平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首·画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちやん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 _{大正8年}	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 ^{昭和21年}	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 ^{昭和24年}	教育漢字 平成4年	参	考
7			_	_			_						\rightarrow
屛風土台	節用	<u>-0</u>											現代中国
		古文											
ナ		七	ナ	¥			セ	七	セ	七	セ		七
益田本白詩	節用	-1											現代中国
				_									
藤原頼道	暦日	j	1	7			1	J	1	1]		現代中国
+	-1	下	下				下	<u> </u>	7		下		_
三体白詩	節用	-2	1	下			下	下	Ţ,	1			現代中国
		古											
		古文											
展出	美	11 -2	三	W			111	111	1		111		現代中国
		主											
よ解風土台	上	<u></u>	上	エ			上	上	エ	上	上		現代中国
and the		山											
		古文											

親字	音訓	甲骨: (殷・西	文・金文・ 酒周・春秋	古文 • 戦国)	説文解字 秦篆		書集・後漢)	草書	行書		(書 から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
丈	ジョウ たけ			*	支	玄	丈				丈	丈	文
** ^①				古里	説文篆文	馬王堆	石門銘				孔子廟堂碑	開成石経	栗原寺塔鑪盤銘
3				睡虎地泰簡		居延漢簡							光明皇后
万	マンバン	5	5	8		7)	万		万	万	ブ	万	カ
教2常①	よろず	古璽	古璽	古璽		居延漢簡	羅布淖爾漢簡		集字聖教序	張猛龍碑	雁塔聖教序	干禄字書	法華義疏
萬	マン バン よろず	甲骨	大変を	光	開新	第銀織山竹簡	事	多	第 集字聖教序	將孫共造像	萬城	萬	為
		TB	人利民	孙口龙间	此人家人	劣	日土附	日小十丁人	米丁玉秋月	床扒工追除	700人百	INTE	7-4314111
与 ************************************	ョ あたえる あずかる くみする			与郭店楚簡	う説文篆文	居延漢簡	与	了	与 ^{集字聖教序}	与郷義下碑		与	5
與人②	あたえる あずかる くみする		E与3 ヤヤ 侯馬盟書	デ に デスト 睡虎地泰簡	は対象文	製	<u> </u>	1.044	東子室教厅 順亭序	典元證墓誌	與	與	法華義疏
与			(大)	中山王方董	(A)	月 月 居 経 選 簡	NO. GO IPF		IMI 2-/17*	儿社签部	10.17 WH 75 PP	1 株子宮	仏平牧姚
<u>H</u>	チュウ うし	A 甲骨	3	争	A	政	尹				#		Į.
丒		中省	金文	包山楚簡	説文篆文	馬王堆	袁安碑		蘭亭序	元思墓誌	雁塔聖教序	干禄字書	那須國造碑
④ 数4常①	フ ブ ず	↑ □□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□	下	清 ^{郭店楚簡}	不	居延漢簡 天 馬王堆	武威漢簡	分> +t-tit	る。集字型教序	不服経施	不	不	不
秋王田(1)		₩ 甲骨	毛公鼎	矛 包山楚簡	派	3 居延漢簡	通器碑	1 644	未丁玉弘	weam mend	700人台	1 78 7 7	大き
	カツ しばらく まさに	A	A BLESS	身 睡虎地秦簡	且談文篆文	旦 馬王堆	上上	卫		且元證墓誌	上南破邪論序	且五	上 注 法華義疏
			郭店楚簡	皇山楚簡	<u>国</u> 説文古文	Trop meet gas	tot state i				and V		i was N

【丈】「支」と字体衝突し、漢代に字体を変更する。「丈」の も前の戦国時代から使われており時代が合わない。もう一つ 点は「咎なし点」で付けても付けなくても良い。

【万】「万」と「萬」は別字だが古くから通用し、干禄字書も ン字」が「マンジ」になったようだ。 両方とも〈正〉とする。「萬」の居延護簡の草書体が「万」 【与】「與」とは別字だが通用する。多くの漢和字典では「一」 に変化したとする説もあるが、「万」は居延漢簡の時代より の2画だが、康熙字典では「一」の3画で、字体も異なる。

関連する文字に「卍」がある。この字も「マン」と読む。「マ

漢子 参考 4年 参考
太大
明 張瑞図 現代中国
万 万
万
現代中国
与
現代中国
現代中国
丑
現代中国
不不
現代中国
I.
現代中国

最終画の横線が右に突き出るのは江戸以降か。拓本の干禄字 書は不鮮明なので江戸期の版本をあげる。

親字	音訓	甲骨: (殷・西	文・金文・ 酒周・春秋	古文 • 戦国)	説文解字 秦篆	隷(秦・前沿	書	草書	行書		書から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
丘	キュウ おか	M	亚	Y	M	11	25	6	丘	上	正	些	压
常①		甲骨	金文	戦国金文	説文篆文	馬王堆	禮器碑	淳化閣帖	唐太宗	始平公造像	九成宮	五経〈説文〉	王勃詩序
				少	垩	11	工					工	
				包山楚簡	説文古文	居延漢簡	北海相景君碑					五経〈石経〉	
												上	
111.		-1-	H/	MZ	11+			入	71	. 17.	.11	江戸五経〈石経〉	11
世	セ セイ よ	K	湖	堂	世	411	世	6	世	世	世	廿	T
教3常①		金文	中山王方壺	戦国金文	説文篆文	馬王堆	曹全碑	孫過庭千字文	蘭亭序	張猛龍碑	皇甫誕碑	開成石経	聾瞽指歸
卋						世	屯			屯	世		屯
						馬王堆	鮮于璜碑			王遷墓誌	李寿墓誌		聾瞽指歸
世	セ セイ よ					tt t	#			丗	世		世
2	6					馬王堆	曹全碑陰			輝福寺碑	倪寬伝賛		東大寺大仏殿
内	ヘイ あきらか ひのえ	甲骨	股·金文	A	下	馬王堆	丙 Z與碑	承過度千字文		力元暎墓誌	下 倪寬伝費		方
#U		中省	版·亚义	亚人	凯又家又	馬土堆	乙央阵	休旭陆丁子人		儿映坐部	忧見囚買		法隆守亚里
			150 A ada										
-K		, Ex	股·金文		aß.	R		2	孟	120	31	30	
丞	ジョウ リョウ	1	<i>\$</i>		爾					_		_	
人①		甲骨	金文		説文篆文	馬王堆	新居延簡	居延漢簡	王献之	張猛龍碑	皇甫誕碑	開成石経	
		1,3					<u>ي</u> ر						
		殷•金文	7	5	dia.	居延漢簡	曹全碑	7			工	T	7-
両	リョウ		m	阐	兩	4	兩	あ			两		WY
教3常①			金文	包山楚簡	説文篆文	馬王堆	西狭頌	智永千字文		中岳崇高霊廟碑崇高	孔子廟堂碑	開成石経	王勃詩序
兩			M		111	12/4	网						南
2	^1 -1	11	金文	11	説文篆文 小	武威漢簡	石門銘	\ /		+ <u>E</u>	• •	22	王勃詩序
业	なみ ならびに ならぶ	YV	<u>IY</u>	<u> </u>		亚	拉化	当		並	立立	竝	並
教6常①	ならべる	甲骨	金文	中山王方壺	説文篆文	居延漢簡	趙寛碑	十七帖		鄭羲下碑	道因法師碑	干禄字書	法華義疏
並		EZ	34	22		10	世				亚	江广	並
2		殷•金文	包山楚簡	睡虎地秦簡		居延漢簡	曹全碑				九成宮	五経・序	王勃詩序

して欠画したのだろうか。ちなみに孔子の諱が「丘」。

【世】古くから「世」「卋」「丗」とその亜種がある。文部省 【丙】行書や楷書では囲まれた空間では右ハライはしない。

【丘】江戸時代の版本の五経文字では一画少ない。何かを避諱 「世」を避諱して欠画したものだろうか。漱石は「世」「丗」2 種類の字体を使用。

活字は中央の縦線が下に突き出ているが、これは説文篆文に 【両】「兩」は「入」の部首に分類されるのだが、手書きでは

倣ったのだろうか。開成石経の字体は唐太宗の諱・世民の 「人」を書く。「両」は中国では清代、日本では江戸時代まで

		i .					,				字体変遷	于典』入	パギザルト
平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首·画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちやん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参	考
丘 粘葉本朗詠	女	丘	丘				丘	丘		丘			<u></u> 現代中国
		北											
		北											
世間中華	野	世	世	#	世陸軍〈正体〉		世	世	世	世	世		現代中国
を 関戸本朗詠	在	西			中							- は 北宋·**	
・世 教業信証	節用	世		世	陸軍〈別体〉							北宋·米芾	
万 元曆萬業①	わ 五穀無尽蔵	丙	丙				丙	丙		丙 ×			丙 ^{現代中国}
全	全 庭訓往来	丞	丞				丞						派
元曆萬葉(8)	両 ^{節用}	入6	両	ঠো	教科書	两	兩	阿	120	山	両	市 清·阮元	現代中国
	あ	本			画 陸軍〈別体〉			两				- 1	
近	並	並	並	差	並		並	並	並	並	並	並	并
近	藍	並5	並		並			色色				<u>₩</u>	

みつけられない。太宰治が「両」を書いている。

【並】中国では古くから「並」と「並」は両方とも使われて いる。日本では「並」の使用例が多いが、筆順が2種類ある。 干禄字書が〈通〉としている字体が開成石経に使われている。 康熙字典には「並」と「並」があるが「並」はない。日本の

印刷例では「並」より「並」の例が多い。

<u> </u>	T- K	⊿ /· u / J .		/ 1/3/									
親字	音訓		文・金文・ 3周・春秋		説文解字 秦篆		き (書 (美・後漢)	草書	行書		(書 から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
教1常①	チュウ ジュウ なか あたる うち	申申	何尊	百鼓文	中 _{説文篆文}	中馬王堆	中石門領	浄化関帖	中集字聖教序	中聚猛龍碑	温度博碑	中五経・序	福荷山古墳
		1	散氏盤	郭店楚簡	製業	居延漢簡	中						中
		東	人 (英馬盟書		東談流								
#10	カン セン くし なれる つらぬく												
丸	ガン まる まるい まるめる				記文篆文	大 居延漢簡	永平神仙 画像漆盤	人智永千字文	A _{鴨頭丸帖}		北		大し東大寺献物帖
丹	タン		点 _{金文}	といっている。	月 ^{説文篆文}	月馬王堆	· 子子 禮器碑除	中	丹	丹	升丸成宮	丹五経文字	-科 E動詩序
					説文古文								
					形								
主 教3常①	シュスおも		里	生 睡虎地秦簡	里 說文篆文	居延漢簡	王, 乙瑛碑	2 淳化閣帖	支 興福寺斯碑	主郷義下碑	土	主開成石経	主
井	タン トン どんぶり どん		大克鼎	井散氏盤	井	持居延漢簡	ナナー武威漢簡				井 皇甫驎墓誌		
乃	ノ ダイ ナイ すなわち の	プ甲	3 大孟鼎	3	3 談文篆文	3 馬王堆	多 北海相景君碑	分 +七帖	み	乃 ^{鄭義下碑}	乃 _{九成宮}	ろ 五経・序	乃
			1 毛公鼎		之	居延漢簡	ブ 3						
			3 _{侯馬盟書}		3 3 競文古文	3 居延漢簡							
久 数5常①	キュウ ク ひさしい				式説文篆文	居延漢簡	人北海相景君碑陰	人	た 集字聖教序	人	人 孔子廟堂碑	人	大 型武天皇雑集

【丸】点の位置に注意。『康熙字典』では「凡」に似た字を正 【丹】太宰は「丹」よりも「丹」に近い。説文篆文に従えば点 字とし、通用字体を俗字としている。漱石は江戸版本と同じ は横線になるはず。 字体を書いている。直井潔「国定教科書に於ける正字俗字一 【井】「どんぶり」という意味で使うのは日本独自。中国では 覧表」では「文部省に於いて特に正体を舍てて俗體を取りれ 「井」と「井」は異体字でどちらも「井戸」のこと。上の表 たるもの」としている。

の中国での使用例は「井」の意味。「刑」の初文が「井」な

										U	字体変遷	子 典』人	州 単 和 IF
平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首·画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちやん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 _{大正8年}	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 ^{昭和21年}	太宰治 人間失格 ^{昭和23年}	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参	考
中展土台	中	中	中	中			中	中	中	#	中		現代中国
		市											
海 元曆萬葉⑨	串	事 16	串				串						現代中国
れ 元暦萬葉⑫	出	几	丸	t	丸		丸	丸	丸	九	丸	丸	丸
升 元曆萬業①	丹	丹	丹				丹	丹	17	丹。		丹	丹現代中国
		日											
		形											
主		主	主	主			主	主	士	主。	主	主	主現代中国
	抄	井	并				井		井	-			井 現代中国
万元暦萬葉①	乃	75	乃				乃						乃 現代中国
		す											
		亭											
人 元曆萬葉②	火 ^{節用}	人	久	2			ス	久	久	久	久	マ 素山刻石	久 ^{現代中国}
元暦萬葉②	節用	J 2										泰山刻石	現代中国

ので、それを区別するために「井戸の「井」に点を加えたと か。「どんぶり」とは物が水に落ちる音という説もあり。

親字	音訓	甲骨: (殷・西	文・金文・ 語・春秋	古文 • 戦国)	説文解字 秦篆		書 漢・後漢)	草書	行書		書から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
之	シ の これ ゆく	4	火	文 包山楚簡	业	<u>果</u>	乙瑛碑	之 +this	之	2	2	2	2
X.U		H	N N N N N N N N N N N N N N N N N N N	と山港画	説文篆文	と	乙块辉	十七帖	開学序	高貞碑	九成宮	干禄•序	王勃詩序
		¥#	ψ ψ	里耶秦簡		馬王堆							
平		単	石鼓文	睡虎地秦簡	至	居延漢簡	手	Z	争	乎	丰	华	华
\(\bar{\pi} \)		甲骨	大克鼎		説文篆文	馬王堆	孔宙碑	_	集字聖教序	鄭義下碑	九成宮	干禄・序	王勃詩序
			史頌殷			馬王堆				張猛龍碑			
			子			居延漢簡							
乍	ながら		と大孟鼎	と発展を発	L 説文篆文			と書籍	作 集字聖教序	石門銘		上 九経〈説文〉	ド
		型 般·金文										乍	
乏	ボウとぼしい	W 3EX		V.	更		2	_		色	之	I	包
常①				中山王方靈	説文篆文	馬王堆	武威漢簡	淳化閣帖		金光明経巻二	破邪論序	九経〈説文〉	王勃詩序
乗	ジョウ のせる のる	\$	粢	突	兼	非	釆	方、元趙孟頫	乗	垂	乘	築	乗
乘		甲骨	新李子日監 全 文	黎	***	兼	非能山頌 非 素平石経	儿坦血烟	興福寺断碑	鄭義下碑	孔子願堂碑	来	王勃詩序
人②			並又	呼近地奈問	説文古文	居延漢簡	※ 下石柱				雁塔聖教序	五年/雜省》	
Z 常①	オツ おつにょう きのと	甲骨	股·金文	とした簡	説文篆文	居延漢簡	乙英碑			乙		て 開成石経	し _{親玉集}

【之】説文の字体に対応する明朝体の字体が康熙字典では古 従った字体が追加されている。 文になっている。隷書以降の字体は里耶秦簡の字体を元にし 【乗】唐代の正字である開成石経(楷書)と清代の正字である たものか。

【乏】説文篆文の字体が左右反転しているようだ。五経文字 説文篆文と較べればどちらもおかしい。夏目漱石は伝統的な

康熙字典(明朝体)の字体が異なる。正(統)字体の根拠である には「乏」一例しか載っていないが、九経字様で説文篆文に 楷書/行書の字体を書いているが、太宰治は康熙字典/文部

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首·画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちやん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 _{大正8年}	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参	考
之元曆萬葉⑦	書札重宝記	之	2	1			之						之 現代中国
		止											
子 元曆萬葉②	李	乎	乎	千			乎					虚点流	于現代中国
1 1	作 絵本籤着軍団	乍	乍				乍						乍 ^{現代中国}
		_											
元曆萬葉①	/	乏	芝	ž			乏	乏	Ź	2		シ	乏 現代中国
季 元曆萬業①	第 節用	乘		至	乗		乘	乘	乘	乗	乗		乗
		桑	乗										
		充											
元曆萬葉⑥	乙。	古文	し	υ			乙	Z		Z			乙 ^{現代中国}

省活字の字体の影響を受けているようだ。

【乙】ZのようになったりLのようになったりする。開成石経 (唐代の正字)では転折の後、あまり左に戻らず、「風」の2画 目のような形。

													D+1/4
親字	音訓	甲骨: (殷・西	文・金文・ 酒周・春秋	古文 • 戦国)	説文解字 秦篆	隷 (秦・前)	書	草書	行書		書から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
九	ク キュウ ここの	2	3	え	カ	文	ナ	か	な	九	九	た	九
教1常①	ここのつ	甲骨	大盂鼎	包山楚簡	説文篆文	馬王堆	乙瑛碑	澄清堂帖	集字聖教序	楊大眼造像	孔子廟堂碑	干禄·後書	聖武天皇雑集
乞	キツ コツ こい こう					言	仓		艺	七		气	毛
新①	-					敦煌漢簡	張景造土牛碑		乞仮帖	元欽墓誌		干禄字書	聖武天皇雑集
						を関連的	武氏祠前黎题字			七			そ 、
ih	t	#	7	45	74	*		. ~	مل		مار).	
也	なりや	金文	で重	睡虎地泰簡	(表)	銀雀山竹簡	曹全碑	十七帖 十七帖	集字聖教序	也高頭	也,	五経·序	王勃詩序
7.0			4	H	t	3X B) 13 13 10	B 30.01	1 0 111	A. J B. J.	1435(11)	7 6/94 []	TELL 13	33,000,073
			車	包山楚簡	説文篆文								
1.1	ラン みだす			影		۵.	577 b	2	1	~)	亚1	.£3	٤1
舌L 教6常①	みだれる おさめる みだれ		金文	事 睡虎地泰簡	原源	多し馬王堆	層は	お	利和	乱郷	涌し ^{九威宮}	乱	王勃詩序
	ラン おさめる			₩¥	贮上		濱						
亂	みだす みだれる わたる			子弾庫楚帛	斯	見り	り段し			利 響龍願		高し	新し ^無
				意識文古文	IS NOT THE PERSON OF THE PERSO	を _{馬王堆}							
乳数6常①	ニュウ ちち ち	早		は	第2	乳							プレ _{王勃詩序}
乾	カン かわかす かわく いぬい			較	靔	飥	幹		真し 集字聖教序	乾	乹	乾	扎
U th				睡虎地秦簡	説文篆文	武威医簡	曹全碑		宋丁 <u></u> 室教序	製工 製工 製工 製工 製工 製工 製工 製工 製工 製工 製工 製工 製工 製	九成宮 草名 雁塔聖教序	江戸干禄	王勃詩序 卓し 法華義疏
了常	リョウ おえる おわる さとる				説文篆文			3 書譜				了 _{五経·序}	3 _{瑚玉集}
子 数3常①	ョ あずかる あずける あたえる あらかじめ われ	甲骨			万 説文篆文	以 馬王堆	テ 居延漢簡			子元珍墓誌	子。	子 九経〈説文〉	子 伝空海急航章
						8 馬王堆	ラ 素平石経					子 九経〈隷省〉	

書では別字とした。

【也】説文に2種があり、康熙字典では片方が古文。ならば睡 両方が使われるが、江戸時代にになると「乱」が多く使われ、 虎地秦簡の字体も古文ということになる。

【乞】「气」と同字とする字書と別字とする字書があるが、本 載。私見では「乱」は「亂」の略字で、「亂」の「ム」の部分 が「乱」の口だと思う。日本では上代以降「亂」と「乱」の 繁体の「亂」の使用例がみつからない。文部省活字は「亂」。 【亂(乱)】「乱」は干禄字書と康熙字典に「亂」の俗字として揭 文部省活字の影響を受けていると思われる太宰治も「乱」を

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首·画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちやん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 _{大正8年}	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参	考
九	ル	九	九	た			九	九		九	九		九
4	包	乞	乞				乞					七	乞
元暦萬葉⑦	を	乙2										干禄〈俗〉	現代中国
元暦萬葉⑦		也	也	せ			也						也
元曆萬葉①	節用	せ											現代中国
舌し	孤	乱	乱	红	乱	乱	亂	乱	41	乱	乱	舌し	壬
高 高 元 西 東 田 東 田 東 田 東 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田	即用	亂	亂									乱	現代中国
儿僧禺来也		2.12										干禄〈俗〉	
乳	乳	乳	乳	36			乳	乳	3L	乳	乳		乳
炉气	-	乾	乾	和上			乾	乾	菜	乾		乹	乾
見	節用	影										刺	現代中国
益田本白詩	3	了	3	7			了	了	3	T		干禄〈通〉	現代中国
関戸本朗詠	子	子	予				予	予		予	予		現代中国
藤原定家	宝抓取] 3											現代中国

書き、「亂」は書いていない。

ganと読むときは「干」を使う。

【予】別字だが「豫」と通じる。太宰治は「豫感」と書いてい る。九経字様の字体は楷書とは思えないが、これが正字。開

成石経の「豫」は最後の2画を省いている。これは唐の代宗 【乾】現代中国ではこの字をqianと読むときは「乾」を使い、 の諱を避諱して欠画しているのだろう。現代中国では「予」 と「豫」を統合していない。

親字	音訓		文・金文・ i周・春秋		説文解字 秦篆		書 漢・後漢)	草書	行書		書から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
豫。	ョあらかじめ			86	第 說文篆文	家馬班	子祭	は 孫過庭千字文	豫欧洲千字文	豫	豫	子育開成石経	豫
				Сиды	絲	蹊	HIP	Invare 11X	IMMIN I I X	APSX I PT	EWI J.A.	MINCHEL	出身八土作木
争	ソウ あらそう いかでか			争	親文古文	敦煌漢簡	全	争	争	争	争	爭	争
新4常①	ソウ あらそう いかでか			睡虎地秦簡	説文篆文	銀雀山竹簡	石門領 三	居延漢簡	欧陽詢史事帖	元彦墓誌	孟法師碑	干禄字書	野
人② 事	ジ ズ こと つかえる	*	*	舅	事	要寿碑	事	み	事	事	事	事	事
教3常① 手		甲骨	大盂鼎	郭店楚簡	製文篆文	尹	曹全碑	十七帖	興福寺断碑	爨龍顔碑	孔子廟堂碑	五経·序	王勃詩序
	ニ ふた ふたつ	==	=	=	説文古文	居延漢簡	=	-	بز		-	=	4
教1常①		甲骨	大盂鼎	包山楚簡	説文篆文	居延漢簡	曹全碑	書譜	興福寺断碑	魏霊蔵造像	北 子關堂碑	九経字様	王勃詩序
井	ショウセイい	#	上 大克鼎	井	説文古文 井 説文篆文	持居延漢簡	チャ			井	井加姆	井	井
 	ウンいう	平田	八元辯	人血	流入家又	馬王堆	居延漢簡	さ 十七帖	る関連	全用線星誌 論経書詩	九成呂	開成石経	主初詩序 王勃詩序
740				*************************************		居延漢簡	張遷碑	1 0 441	BMG-127/J*	楊大眼造像	大成宮	がかべては	
雲	ウンくも	6 甲骨		う ^連	事の表	尼夏 居延漢簡	正	子 七帖	全	を	長	芸開成石経	宝
,-me		1 13		C to	る。説文古文	東武威漢簡	事全碑	1 4714	W 1 STANT	会論語	雲	ausvillen	
				• •	3 説文古文					no man had H V			

【争】「爭」が正(統)字体とされているが、行書や楷書では 書譜の字体も「日」をくずしているように見える。 「争」「争」両方が書かれている。横線が右に出るものと出な 【事】「亊」と「事」の差は「ロ」が点々に略されるだけで大 いものがある。漱石も太宰も横線を右に出していない。睡虎 きな問題ではない。下から2本目の横線が漢代までは右に出 地秦簡の上部も「日」のようだが、傾いているから「爪」な ているが、南北朝以降は出なくなる。九経字様、康熙字典な のだろう。漢代には上部を完全に「日」に作る字体がある。 ど正字では出る。弘道軒も漱石も太宰も出ていない。漱石は

											子体发度	字典』大	[[[筆]]]
平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首·画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちやん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参	考
豫元曆萬葉①	影響語	豫	豫		豫		豫		發				豫 現代中国
		锦											
争近衛本朗詠	争	争 //(4	争	\$	争明治の漢字	争	爭	爭	Ÿ	争	争	争	争
半元暦萬葉⑩			爭										
事	拿	事	事	事	更		事	事	\$	事	事		事 現代中国
		吏											
元曆萬葉⑥	節用	=0	<u> </u>	=			_		7		_		現代中国
													341114
井 (暦萬葉2)	お節用	井	井	#			井	井		井		井 敬史君碑	井 現代中国
大	が用る人利益草	<u>二2</u>	云	Z			云					節用の「言」	現代中国
活業①	TO THE PARTY SEE AL											MAY N. C. C.	SMAL II
で で 元暦萬業1	雲	雲	雲	虫			雲	雲	雲	雲	雲		式現代中国
· dem e 2 de *	pre// 18												201 X 1 FM
E 1. 7 12	*****). v= ##:=#	・ 行聿の	<i>р</i> 4. э. э	,	=	[#. o		-11 byr [H	ナーレ オ しっ	>

ほとんど草書を書くが、まれに楷書・行書の字体を書く。 【于】説文篆文と泰山刻石の字体が異なるが、もちろん泰山刻 【云】「雲」の元の字で、後に「雨」を加えたという。 石が正しいのだろう。

戸」の「井」の方に点をつけて「井」にしたともいう。

【井】説文篆文には点があるが、なぜか開成石経にはない。 「刑」の初文が「井」なので字体の衝突を避けるために「井